

第3学年1組 算数科学習指導案

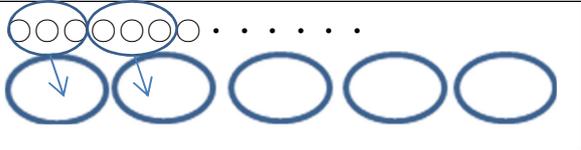
平成28年 5月25日(水) 2校時
 指導者 教諭 工藤 慶次郎
 場所 3年1組教室

- 1 本研究授業の提案
 新しい計算の仕方について、既習内容を活用して考えたり、友達の考えを聞いて再検討したり確かめたりできる授業。
- 2 本研究の授業技術課題
 一人一人の実態を把握し、個に応じた支援ができるようにする。
- 3 単元名 新しい計算を考えよう
- 4 単元の目標
 ◎ 除法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。
- 5 指導計画(本時 3/10時間)

次	時	主な学習活動
一 「1つ分の数」を もとめる計算	①	除法に関する用語・記号を知り、等分除の意味について理解する。
	②	等分除の立式の仕方を練習する。
	③	等分除の答えの見つけ方を考える。【本時】
二 「いくつ分の数」 をもとめる計算	④	等分除との違いを確認し、包含除の意味について理解する。
	⑤	包含除の立式の仕方を練習する。
	⑥	包含除の答えの見つけ方を考える。
	⑦	等分除も包含除もわり算として計算できることを理解する。
三 まとめ	⑧	被除数が0の場合や被除数と除数が同じ場合の除法ができるようにする。
	⑨	既習内容を使って、練習問題を解く。
	⑩	学習内容の定着を図る。

- 6 本時の展開
 - (1) ねらい
 ○ 等分除の答えの見つけ方について、半具体物や図・式などを使って考えることができる。
 - (2) 指導過程

	学習活動	指導事項・留意点・評価
つかむ (10分)	1 文章問題を読んで、立式する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ゼリーが 20 こあります。 5人で同じ数ずつ分けます。 1人分は何こになりますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「同じ数ずつ分ける」から、わり算だ。 ・「1つ分」を求めるから、わり算だ。 ・$20 \div 5$ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の、等分除の問題作りでも活用できるように、問題文は <ol style="list-style-type: none"> ①初めの数(全部の数) ②分ける数 ③質問の文 の3つの文で構成する。 ・わり算で計算する根拠を明確にしておく。
	2 学習課題を確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> $20 \div 5$の答えの見つけ方を考えよう </div>	
	3 おはじきを使った答えの求め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 1人に1個ずつ分けていく。 ② 1人に2個ずつ分けていく。 ③ 1人に4個ずつ分けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を思い出しながら、半具体物を使って分け方を説明できるようにする。

つなげる (15分)	<p>4 友達のおはじき操作の仕方を、言葉や図、式などで表す。</p> <p>① (引き算で表す) 1人に1個ずつ分けて 1人分が1個のとき:$20-5=15$ 1人分が2個のとき:$15-5=10$ 1人分が3個のとき:$10-5=5$ 1人分が4個のとき:$5-5=0$</p> <p>② (足し算で表す) 1人に2個ずつ分けて $2+2+2+2+2=10$ まだ10個余っているから $4+4+4+4+4=20$ ちょうど全部分け切ったから1人分は4個</p> <p>③ (かけ算で表す) $1\times 5=5$ (1人分は1個) $2\times 5=10$ (1人分は2個) $3\times 5=15$ (1人分は3個) $4\times 5=20$ (1人分は4個。ちょうど分け切れた。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や図、式などで表してみる。 どのようにおはじきを操作して分けたかについて、自由に友達に確認してよいこととする。 言葉や図、式で表したものを発表し合う。 <p>※自分の考えを書けない児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに行った文章問題での答えの見つけ方(おはじき操作)を振り返らせる。 <p>※自分のおはじき操作についての説明を図や式に表せない児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> どのようにおはじきを分けたか、順を追って図や文章に表してみるよう声掛けする。 <p>※自分の考えを書けている児童への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えた理由も書けるよう声掛けする。 <p>【評価】言葉や図などで自分の考えを表している(ノート)。</p> <p>④ (図で表す)</p> 
ふかめる (13分)	<p>5 より早く見つけやすい答えの見つけ方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼリーを同じ数ずつ(□個ずつ)5人に分けると、ゼリーは全部で何個ですか(20個)というかけ算の問題と考えて $\square\times 5=20$ 5の段で□に当てはまる数を考えて $\square=4$ 	
まとめ (7分)	<p>5 今日の学習で分かったことを言葉でまとめる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>20÷5の答えは(5の段の九九)でもとめられる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> わり算の答えは、かけ算を基にして求められることを実感させるために、分けた後のおはじきを、元に戻す操作を実演する。

(3) 板書事項

20÷5の答えの見つけ方を考えよう	○1人に2個ずつ	○1人に3個ずつ	○1人に4個ずつ	<p>まとめ</p> <p>20÷5の答えは(5の段の九九)で見つけられる。</p>
-------------------	----------	----------	----------	--

(4) 本時の評価

具体の評価規準	等分除の答えの求め方について、様々なおはじき操作を基にして、それを言葉や図・式に表し説明することができる。
Aと判断する姿	等分除の答えの求め方について、図や式で表し理由と共に説明することができた。
Cへの手立て	前時の学習を振り返ったり友達の発表を聞いて、おはじき操作をさせる。

